

第2回福岡空港構想・施設計画段階P I 評価委員会

1 日 時 平成22年10月25日（月） 17：30～18：45

2 場 所 福岡ファッションビル8階Bホール

3 出席者

○福岡空港構想・施設計画段階P I 評価委員会

石田 東生 委員長

杉尾 政博 委員 竹林 幹雄 委員 藤田 和子 委員 山本 智子 委員

○福岡空港構想・施設計画検討協議会からの出席者

（幹事）

国土交通省九州地方整備局港湾空港部長 松原 裕

国土交通省大阪航空局空港部長 傍士 清志

福岡県企画・地域振興部理事兼空港対策局長 金子 英幸

福岡市経済振興局長 松本 友行

4 議 事

【事務局】

本日はお忙しい中、ご出席を賜りありがとうございます。

定刻になりましたので、第2回福岡空港構想・施設計画段階P I 評価委員会を開会いたします。本日は、福岡空港構想・施設計画検討協議会の幹事の方に出席いただいております。

まず議事に入ります前に、お手元の配付資料のご確認をお願いいたします。資料につきましては、配付資料一覧にございますように、次第、出席者名簿、座席表、参考資料、それから本日の議題に関連します資料1、そして資料2-1と2-2がございます。よろしいでしょうか。

なお、資料2-2につきましては、P I レポート、各催しの実施を示した概要及び寄せられたすべてのご意見等をまとめた大変厚い資料でございます。本日の審議は、資料2-1を中心に行われる予定でございます。マスコミ、傍聴の方へは配付をいたしておりませ

んが、何部か用意しておりますので、ご希望の方は受付の職員までお申しつけください。

ここで、マスコミの方にあらかじめ申し上げますが、議事進行の関係で、テレビ、カメラ等の撮影は、資料1の「P I 実施段階における実施状況把握の結果について」の説明までとさせていただきますので、ご協力よろしくお願いいたします。

また、傍聴の方につきましては、受付でお配りしました「傍聴に当たっての注意事項」を遵守いただきますようお願いいたします。

議事に入ります前に、事務局より1点ご報告がございます。参考資料でございます設置要綱につきましてですが、委員の職名の変更に伴い、要綱につきまして、平成22年4月1日で変更となっております。

それでは、議事に入りますが、議事運営につきましては、規約により、委員長が行うこととなっておりますので、石田委員長よろしくお願いいたします。

【石田委員長】

石田でございます。今日もよろしくお願いいたします。もう夕方遅い時間でございますので、早速議事に入りたいと思います。

本日予定しております議事内容としては、次第にもございますように、(1) P I 実施段階における実施状況把握の結果についてということと、(2) P I 実施結果に関する評価についてでございます。両方の説明をいただいてから、議論してまいりたいと思います。まず、議事1の「P I 実施段階における実施状況把握の結果について」の説明を事務局からお願いいたします。

【事務局】

それでは、事務局より、P I 実施段階における実施状況把握の結果についてご説明いたします。資料1をご覧ください。実施状況把握の活動につきましては、各委員に個別かつ任意に各種のP I イベントに足を運んでいただきまして、その状況を見ていただき、所見やアドバイスを記した実施状況レポートを提出していただいているところでございます。ここにその活動結果について整理いたしております。

まず(1)の実施状況把握の一覧でございます。この表では、日付の順に、ご覧いただきましたイベントについてまとめております。今回のP I では、8月27日の説明会から9月19日の周辺地域説明会まで、九つのイベントについて各委員に見ていただきました。下の欄に説明会など、イベント別の回数を整理いたしております。イベントの種類としましては、説明会をはじめとしまして4種類のイベントを見ていただいております。各

委員には、一つないし二つのイベントについて、他の委員と日程が重ならないように見ていただいております。全体的にP Iの実施状況を把握していただけたものと考えております。各委員の皆様には、お忙しい中ご足労いただきましてありがとうございます。

それから、(2)の実施状況レポートでございますが、実施状況を見ていただいたイベントについての所見とアドバイスにつきましては、各委員からきめ細かくご意見をいただいております。次のページの別紙1から別紙9に登載しております。

主な内容を紹介させていただきますと、説明のわかりやすさや質問への回答など、イベントの運営については、全般的により評価をいただいた一方で、イベント開催に関する周知広報、専門的内容をわかりやすく説明する上での工夫、論議を盛り上げるような司会のあり方などについて、ご指摘をいただいております。また、これまで蓄積されたP Iのノウハウ、成果について、今後も活かしていくことが望ましいというアドバイスもいただいております。

これらの実施状況レポートにつきましては、P Iの実施期間中に、福岡空港構想・施設計画検討協議会に通知いたしまして、対応を求めたところでございます。

また、実施状況レポートは、福岡空港プロジェクトのホームページに順次、公表いたしております。

続きまして(3)の実施状況把握の取り扱いについてでございますが、実施状況把握の一覧と実施状況レポートを、本委員会の活動報告といたしまして、P I評価書に添付したいと考えているところでございます。資料1の説明は以上でございます。

【石田委員長】

どうもありがとうございました。

【事務局】

ここで、マスコミの皆様申し上げます。説明が終わりましたので、撮影はここまでとさせていただきます。テレビカメラの方につきましては、退室のほうをお願いいたします。また、以後の写真撮影につきましてはご遠慮ください。よろしくお願いいたします。

(テレビカメラ退出)

【石田委員長】

ただいま、事務局より説明をいただきました。各委員に現場に足を運んでいただきまして、レポートをいただいております。現場の雰囲気等とか実施状況を把握していただいておりますが、実際にP I活動を見られて感想などございましたら、各委員から発表してい

ただければと思います。いかがでございましょうか。

【石田委員長】

何か追加すべきようなことはございませんか。あるいは、特に強調しておきたいこととか、ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

【石田委員長】

ということでございますので、実施状況把握の結果についてはこれで終わります、本日のメインでございすけれども、議事２のＰＩ実施結果に関する評価に移りたいと思います。それでは、ＰＩの実施報告をお願いいたします。

【事務局】

それでは、資料２－１「福岡空港の滑走路増設に係る構想・施設計画段階の情報提供等（ＰＩ）の実施報告書（案）」に沿ってご説明をさせていただきます。実施報告書につきましては、冒頭、司会からもございましたように、資料２－２の資料編も含めて実施報告書となるわけでございますが、厚い資料２－２につきましては、公表したＰＩレポートそのもの、またインフォメーションコーナーや説明会などＰＩ手法の実施計画書、ＰＩの実施結果、期間中の委員からのご助言とそれへの対応——先ほどの資料１でございす——、それと寄せられました生のご意見、昨年１２月にご審議いただきましたＰＩのあり方などのＰＩ実施計画を整理したものでございすので、こちらの資料２－２の説明については、本日は省略させていただきます、資料２－１に基づいてご説明をさせていただきます。

まず資料２－１の表紙をめくっていただきまして、「はじめに」をご覧ください。ここでは、構想・施設計画段階に至る調査の経緯、構想・施設計画段階における今回のＰＩの概要、本報告書の位置づけを整理してございます。上から三つ目の段落に記載しておりますとおり、今回のＰＩでは、８月２３日から９月２７日までの約１カ月間に空港周辺の住民や空港利用者の方々を中心に情報をご提供し、１,５００人を超える方々から約２,９００件のご意見が寄せられたところでございます。最後の段落に記載しておりますが、この報告書は、福岡空港の構想・施設計画段階のＰＩの実施結果、寄せられたご意見の分析、ご意見に対する考え方などを取りまとめたものでございます。

１ページをお開きください。１ページから３ページにかけましては、今回のＰＩの活動内容を整理してございます。まず１ページの（１）周知広報活動につきましては、ＰＩ実施計画に基づきまして、準備段階から実施期間を通じまして、福岡空港の周辺地域を中心

に、チラシ、ポスター、行政だより、ホームページ、ラジオ広告など、さまざまな手法で周知広報を実施しております。総合的な調査の時と比べますと、駅での配布は、空港や飛行ルートに近いところで重点的に行い、説明会の周知につきましても、空港周辺の博多区、東区の公民館だよりを活用したことなどが特徴でございます。

2ページをお開きください。P I レポートに関する情報提供及び意見収集につきましては、表2にお示ししているとおりでございますが、今回のP I では、福岡空港にかかわりの深い周辺地域住民の方々や空港利用者等の方々を中心に、きめ細かな情報提供と意見収集に努めたところでございます。P I レポートにつきましては、街頭配布を中心に6万8,000部を配布しております。また説明会などにつきましては、特に空港周辺地域で手厚く実施し、説明会と周辺地域説明会で計11回、そのほか要望に応じて実施する出前説明会も8回開催してございます。特に説明会、周辺地域説明会で465名という多くの方々にご参加いただき、周辺地域の皆様の参加機会につきましては、十分に確保できたものと考えています。

4ページをお開きください。4ページから11ページにかけましては、今回のP I でご意見をお寄せいただいた方々のご意見の分析などを整理してございます。

まず、属性などが把握できますはがきやホームページによってご意見を提出いただきました方の人数は1,545人、その意見数は累計で2,859件となっております。なお、この2,859件の中には、はがきやホームページ以外の説明会などでのご発言、自由様式でご提出いただいたご意見などについてもカウントしてございます。

次に、ご意見を寄せられた方の属性等につきましては、福岡県にお住まいの方が1,256人で、全体の約8割となっております。九州・山口以外のいわゆる地元以外の方々は約1割という構成になってございます。ちなみに、福岡県の内訳でございますが、福岡市の方々が約700人程度、さらにその半分は空港に近い博多区と東区の住民の方となっております。性別につきましては、男性が約7割、女性が約2割となっております。年齢につきましても、比較的満遍なくご意見をお寄せいただいたところでございます。

2年前の総合的な調査のステップ4の時と比較いたしますと、女性の割合が約3割から2割、30歳未満の方が約3割から大きく減少することとなっております。これにつきましては、ステップ4の時は、大学や専門学校などで出前説明会が多数開かれた一方、今回のP I では、空港周辺地域を中心に、レポート配布や説明会を手厚く実施した結果だと考えています。

5 ページをお開きください。職業につきましては、会社員の方を中心に自営業、専業主婦、無職の方などを含めまして、幅広くご意見が寄せられたところでございます。また、福岡空港からの航空機利用状況につきましては、数年に1、2回から、年に15回未満の方のご意見が全体の約7割を占めておりますが、年30回以上という方からも比較的多くのご意見をいただいております。

次に、意見はがき等の回答状況につきまして、ご説明させていただきます。

まず意見はがきの問1は、「PIを実施していることをどこで知りましたか」という設問でございます。これにつきましては、PIレポートの街頭配布という回答が最も多く、次いで行政の広報誌、新聞、雑誌などの記事という順になってございます。

次に問2の「PIレポートはどこで入手されたか」に対しましては、街頭配布が6割強、説明会が約1割という結果となっております。

6 ページでは、問3「滑走路増設案の整備内容、影響などについてわかりましたか」という設問でございます。これにつきましては4つ小項目をつくってございまして、一つ目の増設する滑走路位置や規模など整備の内容につきましては、全体の約9割の方から「わかった」あるいは「概ねわかった」と回答をいただいております。二つ目の滑走路増設による影響や効果につきましては、約8割の方から「わかった」あるいは「概ねわかった」という回答をいただいております。三つ目の費用や工事期間につきましても、同様に約8割の方から「わかった」あるいは「概ねわかった」、四つ目のPIレポート全体としての理解度につきましても、約8割の方から「わかった」あるいは「概ねわかった」という回答をいただいております。このように全体の約8割の方が「わかった」あるいは「概ねわかった」ということでございまして、専門的な内容が多かったにもかかわらず、かなり高い割合で「概ねわかった」以上の回答をいただいておりますので、ご提供した情報は効果的に伝わったものと考えています。

次に、問4の「滑走路増設案について、どのような視点に関心があるか」という設問に対しましては、半数近くの方が「増便や新規路線開設など利便性の向上」「航空機の運航に対する安全性の確保」「航空機騒音などの影響」「旅客ターミナルや貨物ターミナルなど空港内の施設の配置や規模」などに関心をお持ちであることがわかりました。問4の結果を大きな項目ごとに見ますと、施設の計画や工事につきましては、「旅客ターミナルや貨物ターミナルなどの空港内の施設の配置や規模」に対しての関心、同様に空港の運用につきましては、「航空機の運航に対する安全性の確保」、周辺地域への影響については、「航空機騒

音などの影響」、期待する効果や望まれる機能については、「増便や新規路線開設など利便性の向上」という点に多くの関心が寄せられております。

次に 8 ページの中段以降でございますが、これまでは選択式の回答だったところでございますが、「福岡空港に望む機能などの具体的な内容」につきまして、自由に記述していただく形でご意見をいただいたところ、お寄せいただいた方の約 60%という多くの方から自由意見を記入していただいております。寄せられました自由記述のご意見を大きく 6 項目に分類しましたところ、1 番目の福岡空港の機能拡充に期待するというご意見が 313 件と最も多く寄せられております。次いで 3 番目のアクセス利便性向上への期待、4 番目のターミナル施設等の充実化の期待について多くのご意見が寄せられております。もう少し詳細に分類したものが表 4 でございますが、多かったご意見といたしましては、国内線ターミナルが分かれていることなど、ターミナル施設の利便性向上を望む、国内外各都市や貨物便などの主航空路線拡充を望むといったご意見、利便性の高い現空港を活用するなど現在の位置での増設を望むなどといった内容のものがございました。

次いで 9 ページでは、同じく意見記述はがき等の中で、「滑走路増設計画について、何でも気づいたこと」について自由記述でご意見をいただきましたが、こちらもお寄せいただいた方の約 61%、940 名の方からご意見を記入していただいております。そのほか周辺地域説明会や技術検討委員会について、自由な形式で寄せられたご意見なども合わせますと、その意見の合計数は 1,643 件となっております。これらのご意見を、技術的な検討内容に対する意見としまして、航空需要予測の精査などの 6 項目、その他の内容としまして、増設関連などの 4 項目に分類して整理をしております。分類の方法については、9 ページの下に例示をしてございますが、文章記述のように同じような一つの文の中でさまざまな項目にまたがる意見は、内容を鑑みてそれぞれに分類分けをしてございます。

その結果を 10 ページで整理をしてございます。この 10 ページの表の中に示しているとおり、検討内容に対するご意見が 803 件、検討内容以外のご意見が 840 件でございました。これらを詳細に分類して集計しましたところ、航空機騒音の影響についてが 290 件、滑走路増設の早期実現が 191 件、安全性の確保が 108 件などと多く寄せられたところでございます。

11 ページに、参考までに今回の意見記入はがきを掲載してございます。

12 ページから 23 ページにかけてですが、先ほどの 10 ページの表 5 の分類に従いま

して、いただいたご意見の概要とそれに対する構想・施設計画検討協議会の考え方をお示ししたものでございます。量が多いので、かいつまんでご説明をさせていただきます。

まず、航空需要予測の精査につきましては、航空需要予測の手法・前提条件として、予測手法やLCC、九州新幹線開業など、需要予測の根拠データや、過去との手法の相違などのご意見があり、協議会の考え方としまして、今回用いた四段階推計法による手法で最新の知見を用いたこと、九州新幹線の開通の影響の加味や、人口やGDPといったデータの再現性を確認していること、需要予測で実施した内容については適正に実施したということをご説明として示してございます。また、航空需要予測の結果につきましては、予測が過大ではないか、再検証の必要性等のご意見があり、最新データを用いまして実績値の再現性を確認したことや、今後需要予測の手法の見直しが進められる予定であり、必要に応じて予測の見直しを行うことなどを記述してございます。

13ページ、14ページでは、滑走路等の配置の検討について記述をしてございます。滑走路、誘導路の配置につきましては、増設滑走路の位置や間隔が適切か、またニアミスなどの懸念などのご意見があり、滑走路間隔などが問題ないこと、安全性を第一に考えた運用を行うことなど、整理してございます。

滑走路の規格、仕様につきましては、滑走路長、かさ上げ高さ、滑走路幅が適切かのご意見があり、就航機材や安全性の観点で設定したもので問題ない旨の回答を記述してございます。

増設計画全般につきましては、処理容量の懸念、計器着陸、河川への排水の影響などご意見があり、現空港での増設による効果、計器着陸の効果や事業費の観点から非精密進入で計画したこと、また排水計画につきましては事業採択段階で検討することなど記述してございます。また、制限表面につきましては、高速道路の取り扱い、新たな高さ制限に関するご意見があり、工期、事業費の観点で滑走路のかさ上げを採用したこと、高さ制限がかかる時期などについて、現状で想定している情報を記述してございます。

安全性の確保につきましては、この構想・施設計画段階の検討項目に安全性がないこと、また現計画案の安全性に対する懸念などについてご意見があり、安全性が何よりも優先することが大前提であり、その上で飛行ルートや空港能力が設定されること、また今後の段階で検討することになるということ、また緊急時の連携体制の状況などを記述してございます。

14ページの中段以降では、施設配置計画及び拡張用地規模の検討について記述をして

ございます。施設のゾーニングのうち施設規模につきましては、誘導路、駐機場、貨物地区などへの懸念などのご意見がございまして、空港内事業者などへのヒアリング調査で決定したこと、事業の実施に向け、より詳細な検討が必要であることを記述してございます。国内線・国際線の乗り継ぎにつきましては、さまざまな手法のご提案がありましたが、現時点でまだ結論は出ているものではございませんので、引き続きの検討課題であることを記述してございます。

東側旅客ターミナル地域：国内線側につきましては、平行誘導路の二重化、現旅客ターミナルビルのあり方、使い勝手などのご意見があり、平行誘導路の二重化について現在検討を行っていること、ターミナルビルについてもあわせて検討する旨の記述をしてございます。

西側旅客ターミナル地域：国際線側につきましては、LCCなどの需要や貨物地区へのご意見、米軍・自衛隊関係の扱いなどのご意見があり、現時点で想定される規模は満たしているものの、事業実施に当たって検討が必要という認識、米軍・自衛隊については国交省の立場を記述し、この案では、民間航空の需要等に対応するものである旨の記述をしてございます。

拡張用地につきましては、規模について大きめの用地取得とすること、あるいは最小限とすることという両面のご意見があり、また具体的区画の公表などのご要望がございました。必要最小限の規模とした考え方、また現時点で具体的区画が確定していない状況を記述してございます。

次いで、航空機騒音の影響について、環境への影響全般につきましては、便数が増えることによる騒音への懸念と対策、航空機材などへのご意見があり、周辺地域のご協力とご理解が必要という認識とともに、現状の対策と構想・施設計画段階の次の段階となります環境アセスメントで詳細な検証をする中で軽減に努める旨の記述をしてございます。騒音対策事業内容の要望につきましては、騒音区域の見直しなどとしまして、現状の騒音対策区域の見直し、線引きの方法、対策区域内の補助の内容、騒音調査の要望などがございまして、区域の見直しにつきましては時期が決定していないこと、騒音測定地点の追加は今後、検討してまいりたいこと、区域につきましては法律に基づいて設定されていること、環境アセスメントの段階で実態把握、より詳細な調査を実施し、このような手続を通じてご理解が必要であることを記述してございます。

空域につきましては、特に現状のルート、高度がまちまちといったご意見があり、一定

のルートが原則である一方、気象条件、交通量などによってばらつきがあり、安全運航確保の観点でやむを得ずご理解いただきたいことを記述してございます。

運用時間につきましては、運用時間の拡大の有無の懸念、現況の夜間の運用などへのご意見がございまして、利用時間の拡大は困難と考えていること、現況の夜間につきまして、遅延便や海上保安庁の緊急出動などの運用が行われていますが、極力運用時間内の運用への努力をする旨、記述をしてございます。

今後の要望につきましては、環境対策費や防音工事など、今後の環境対策の充実、騒音や環境への配慮などのご意見があり、周辺環境への配慮の必要性の認識とともに、低騒音機材の導入、騒音低減運航方式の採用などを推進し、騒音影響の軽減に努める旨の記述をしてございます。

19 ページでは、事業費・工期の検討と費用便益分析について記述をしてございます。工期につきまして、施工方法や施工手順については、運用しながらの影響の懸念、夜間工事の配慮などのご意見があり、関係者との調整を行うこと、環境アセスメントで影響が少なくなる保全措置を検討することを記述してございます。工期につきましては、工期短縮へのご意見が多く出されておりますが、現時点では短縮の明言ができない一方、事業化の段階で詳細な設計などを通じ、工期短縮方策を検討する旨、記述をしてございます。事業費につきましては、事業費増の懸念、単価などへの疑問がございましたが、不確定要因を考慮し精査を行っていることなどを記述してございます。費用便益分析につきましては、住民の被害を計上していないこと、根拠が不明確、精査の必要性などのご意見がございましたが、方法の根拠を示すとともに、指標について貨幣換算が困難であり、住民の被害については計測をしていないこと、また需要予測の見直しとともに必要に応じて費用便益分析についても見直す旨の記述をしてございます。

20 ページと 21 ページでは、構想・施設計画段階の検討内容以外に対して寄せられたご意見を記述しております。増設に関連する項目としましては、地域経済への貢献や航空ネットワークの充実、早期実現といった滑走路増設の効果に対する期待とともに、周辺地域への配慮、地域の活性化といった配慮事項、また県道の地下化など、空港周辺道路やターミナルの利便性向上や充実といったターミナル施設への要望が挙げられております。

また 22 ページでは、増設以外の要望といたしまして、総合的な調査で検討していた新空港の推進、周辺空港との連携方策、増設は不要、といったご意見があり、総合的な調査を踏まえて構想・施設計画段階へ移行した経緯を記述してございます。

また P I についてもご意見が寄せられておりまして、まず提供する情報につきましては、わかりやすい、わかりにくいという両面のご意見とともに、難しい、情報量が多いなどの意見もありましたが、わかりやすくするための取り組みを記述するとともに、先ほどご説明いたしました結果の通り、「概ねわかった」以上の回答が多かった旨の記述をしてございます。

情報提供や意見募集方法につきましては、周知広報などを強化すべき、P I の取り組みの偏りなどのご意見があり、事前の周知を図ったこと、増設計画にかかわりの深い周辺地域を中心に、街頭配布や説明会など、きめ細かい対応を図った旨、記述してございます。

23 ページの意見の反映につきましては、意見などを考慮してもらいたいとのご意見があり、いただいたご意見を今後の検討に活用する旨を記述してございます。

その他、空港経営や総合的な交通体系などについてのご意見が寄せられております。

24 ページから 26 ページにかけましては、参考といたしまして、先ほどの 10 ページでご説明した 1,643 件のご意見を意見はがき、説明会などでのご発言、技術検討委員会開催後の意見募集、にそれぞれ分けた意見数でございます。

27 ページをお開きください。ここからが、今回実施いたしました P I 活動が、P I 実施計画に定めた目標などに照らして適切なものであったかどうかの分析を行ったものでございます。

まず 1 番目の P I 活動が実施計画の基本方針に則った適切なものであったかに関してですが、今回の P I 実施計画と実際に実施した活動につきましては、31 ページから 32 ページにかけての表 7 に記載してございます。この中身でございますが、P I 活動は、実施計画に則って適切に行われたものと考えてございます。

27 ページに戻っていただきまして、P I 実施計画で定めました基本方針に照らしてみますと、①わかりやすい情報提供という基本方針に関しましては、先ほどご説明申し上げましたとおり、提供された情報について「概ねわかった」以上の回答をいただいた方が全体の 8 割を超えておりますので、全体としてわかりやすい情報提供であったと考えてございます。

28 ページの②適切な P I 手法の選定という基本方針に関しましては、周知広報活動については、実施計画に則りまして、ラジオ放送、外国の方々に対するラジオ広告など、幅広い層に対しての配慮、P I 活動の情報を提供するチラシは空港周辺地域を中心に主要駅や街頭などで約 6 万部を配布、さらに福岡県だより、ふくおか市政だよりを活用し、県内、

福岡市内の全戸配布を実施しております。また、これに加えて、福岡市の博多区・東区におきましては公民館だよりもあわせて活用してございます。これらの周知広報活動によりまして、多くの方にご参加いただくことができたものと考えております。P Iの実施に際しまして、実施計画に則りまして、約4万部のP Iレポートを街頭配布したり、周辺地域説明会など催しの多くを週末に開催したりするなど、総合的な調査からのノウハウを活かしながら、住民の方が参加しやすいよう配慮して実施をしております。

29ページの③寄せられたご意見の公表という基本方針につきましては、はがきなどで寄せられましたご意見に加え、説明会などでご発言いただいたご意見もあわせて、今回、実施報告書として取りまとめ、公表しているところでございます。

④中立・公正なP Iの実施という基本方針につきましては、P I実施計画を策定する際、総合的な調査のP Iの実実施計画あるいは寄せられたご意見、本委員会の評価などを踏まえ、中立・公正な計画を策定してございます。また、P Iの実施段階におきましても、中立・公正なP Iの実施となるよう、活動の実施状況につきまして、本委員会の委員の皆様の実施状況の把握をしていただき、ご助言をいただきながら進めてまいりました。そして、委員の皆様のご助言のうち、対応可能なものにつきましては、その都度対応させていただいております。

30ページの⑤適切な期間の設定という基本方針につきましては、P I実施計画におきましては、P Iの実実施期間は2カ月程度を目安とし、住民・関係者等のみなさまの関心と参加が得られやすいよう短期間に集中して実施することとしております。今回のP Iでは、8月上旬より広報活動を始め、8月23日から意見収集を開始し、約1カ月間にわたって催しを集中的に開催し、その実施報告書の作成を経て、本日P I評価委員会を開催しておりますので、概ね適切な期間であったと考えております。

33ページでは、(2)当初の目標が達成されたかに関して整理をしてございます。P I実施計画で定めました実施目標につきましては、次のような分析から概ね目標を達成できたものと考えております。まず、①住民・関係者等のみなさまと情報を共有できたかという実施目標に関しましては、今回のP I活動でP Iレポートを6万8,000部配布したこと、また800人の方が説明会などに参加され、ホームページに対しても多くのアクセスがあるなど、多くの方々に参加いただいております。また、先ほどもご説明申し上げましたとおり、その内容に関しましては「わかった」あるいは「概ねわかった」と回答された方が全体の8割から9割程度という結果になってございます。したがって、十分に周知、

共有されたものと考えてございます。

34ページでは、②ご意見を把握・集約することはできたかという実施目標について整理をしております。今回のP I活動では、はがき等によってご意見をお寄せいただいた1,545人のうち、75%に相当する1,155人の方が、2カ所ございます自由記述の項目に対して何らかご意見を記入していただくなど、高い関心が寄せられたものと考えてございます。ご意見を寄せられた方は男性が多いものの、年齢や空港利用頻度、職業といった点では幅広い層からご意見が寄せられてございます。居住地別では、福岡県を中心に幅広い地域からご意見が寄せられてございます。したがって、幅広い方々から広くご意見を把握・集約できたものと考えております。

35ページでは、最後にまとめといたしまして、先ほどご説明申し上げましたとおり、大変多くのご意見をお寄せいただき、みなさまが増便や新規路線開設など利便性の向上、航空機の運航に対する安全性の確保、航空機騒音などの影響などへの関心が高いことが把握でき、今後の検討に役立つ情報を得ることができました。

以上のとおり、今回の構想・施設計画段階のP Iにおきましては、多様で適切な手法による十分な情報提供のもと、様々なご意見を収集することができましたので、所期の目的は達成できたものと考えております。

以上で説明を終わらせていただきます。

【石田委員長】

ありがとうございました。ただいま説明のありましたP I実施結果に関する協議会としての自己評価について、ご審議いただくわけでございます。本日の構想・施設計画段階のP Iに関しての審議は、総合的な調査段階から含めて、最終段階でもございます。本日の審議はこの点を踏まえながら進めていきたいと思っております。

ここで、本日は傍聴の方もおられますので、念のため当委員会の目的と任務を再確認しておきたいと思っております。

この委員会は、福岡空港の構想・施設計画段階において行うP Iのプロセスや結果について評価及び助言を行うことによって、この検討の透明性・公平性及び公正性を確保するために設置されたものでございます。したがって、調査の中身そのものへコメントをするという立場にはございません。まずそのことをご認識いただければと思います。

また、P Iの実施結果については、P I実施計画で示されたP I活動が実施計画の基本方針に則った適切なものであったかという点でございます。基本方針としては、先ほどの

ご説明の中にもございましたように5項目ございました。わかりやすい情報提供であるか、P I手法は適切であったか、意見がきちんと公表されているか、中立・公正なP Iであったかということと、期間についての適切性の5項目でございます。さらに、実施目標が達成されたかという点でございます。これにつきましても、2項目ございました。皆様と情報の共有ができたかということと、ご意見のきちんとした把握・集約ができたかという点でございます。

これまでの総合的な調査と異なり、今回は、先ほどの説明にもございましたように、技術的な検討が中心になっておりますので、周辺への重点的な説明に心がけたということでございますので、意見数だけが判断基準ではないということも、是非ご留意いただければと思います。以上のことを踏まえて、これから審議をしていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

ということでございますので、これから協議会の自己評価について審議してまいりたいと思います。先ほど申し上げましたように、二つございます。P I活動が実施計画の基本方針に則った適切なものであったかという点と、当初の目標が達成されたかという点でございますので、どなたからでも結構でございます。ご意見を賜りたいと思います。

【竹林委員】

では、最初に私のほうから。結果として、7ページとか34ページあたりで出ていますが、今回のP Iの最終段階では、福岡空港が拡充していく上でどういう全体的な影響が出てくるのかということを理解していただける、要は知らないとかわからないということをする限り少なくするというのが目標なわけです。その結果からいうと、P Iレポート全体、説明すべきことが一応伝わりましたかということで見れば、説明でもありましたように、「わかった」「概ねわかった」ということが8割ぐらいあると、逆に見方を変えると「わからない」という人が10%いないということで、よく伝わっていると評価できるのではないかと思います。

それともう一つ注目すべきこととしては、2ページで今回の情報提供や意見収集をどういう形で行ったかについて、自由記述意見等でもかなり運用における疑問点あるいは運用時間を含めての疑問点、あるいは騒音に対するわからない点とか、あるいは地域の発展とかいうものも含めて意見があります。これは特に周辺の方々にとっては極めて関心が高いことで、よくわかりたいということを望まれていたと思われますけれども、周辺地域説明会などで重点的に意見を収集されていると理解することができます。当初の方針として掲

げたものは、私の観点からすれば、ほぼ達成されていると評価できるのではないかと思います。

【石田委員長】

言葉じりをとらえて申しわけないですが、「ほぼ」達成ということは。

【竹林委員】

完全に達成ですかというのは、人によるとはと思いますが、当初目標に対して満足できるかということを0と1で評価するのであれば、満足できるものだと私は判断します。

【石田委員長】

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

【杉尾委員】

このP Iも今回が5回目でございますので、情報の提供の仕方、あるいは懇談会、説明会での説明の仕方などが大変スマートになっており、わかりやすいという回答に結びついたのではないかと、思います。ただ、調べてみると、P I レポートがわかりやすかったかという質問を今回を含めて過去5回やっているのですが、一番わかりやすかったという回答の割合が高かったのは1回目で41.1%あります。2番目に高かったのが4回目で37.2%、そして3回目が33.6%、そして今回が25.1%になっています。それから、「よくわかった」という人だけについては、2回目が一番悪くて23.2%です。「よくわかった」「概ねわかった」というのはどの辺に線を引くのかわかりませんが、「よくわかった」という人は意外と少ないのかなという印象を受けます。ただ「概ねわかった」まで含めると、今回82%ぐらいありまして、過去における「普通」という回答まで含めれば、やはり4回目が約86%で一番高く、1回目が約84%となっています。

【石田委員長】

ありがとうございました。達成できているということでよろしいですか。

【杉尾委員】

はい。

【石田委員長】

藤田委員、何かございますか。

【藤田委員】

実施状況の分析によりますと、幅広い意見の収集ができていたということで、本当によかったと思います。ただ、多少残念ということでは、5ページですけれども、「P Iを実施

していることをどこで知りましたか」ということについては、街頭配布が圧倒的で、その他のところが少なくなっています。インフォメーションコーナーとかホームページとか努力されているにもかかわらず、それによってP Iを知ったというのが少ないわけです。そういう面で、いろんなところでP Iをされているわけですから、もう少しそういうところからの意見があつたらよかったなとは思いますが、全体的に意見が広く収集されているという面では成功だったと思います。

【石田委員長】

ありがとうございます。山本委員はございますか。

【山本委員】

1回目から8年たったわけですが、進化し続けるものだということを今回本当に思いました。だから、まだ進化するだろうと思います。そういう意味では、この活動は今回で終了することになるわけですが、今後、空港というのは、環境アセスメントへ進んでいくわけです。情報を広く伝えていく努力というのは、これからもやっぱり続けるべきだし、どんなところにもこの手法というのは進化させて使っていただきたいと思います。皆さんの努力の結果は、これからも活かしていくべきもので、ここで終わりということではなく、目標としたことは達成されていると思いますが、まだまだ向上の余地があるので、今後も是非活かしていただきたい。今回の意見で、皆さんの意見が極めて専門的になってきたというところは、やはりそれだけ情報が伝わっていると。もちろん地域が少し狭くなったというのはございますが、この意見の深さ、質問の深さというのは、最初のころには見られなかったことですので、ますます進化できるはずだと思いますので、是非こういう手法を活かしていただきたいと思います。以上です。

【石田委員長】

ありがとうございます。

委員の皆さんの評価に全く同感でございまして、基本方針も評価もいいと思います。委員の皆さんがおっしゃらなかったことで、感想を言わせていただきますと、意見記入はがきでの自由なご意見を書いていた方の割合が6割を超えていて、非常に高うございました。先ほど数だけじゃないと申し上げましたけれども、皆さんの関心の高さと、相当難しい内容をお伝えしているにもかかわらず、それを上回るような専門的な、本当に詳細までご存じの方の意見が多かったなという気がいたしまして、そういう意味では、今回のこのP I活動の質の高さというのを物語っているような気がいたします。

それと、毎回、協議会にはご苦勞してまとめていただいておりますけれども、意見をきちんと分類をされて、それについての考え方を非常に明快に示されている点です。これは、今後こういったコミュニケーション型、あるいは信頼関係を築いていく上で、本当に大事なことだと思います。特に、まだできていないことですか、これからの検討課題について、きちんと検討課題と認識して示されたということは、非常に素晴らしいというように思っております。そういう意味では、今回は難しい内容にもかかわらず、これほど高質のP Iをやり遂げられたということに関しては、二重丸を差し上げてもいいのではないかと思っております。

まだ随分時間がございますので、言い忘れたこととか、あるいは藤田委員は途中からでございましたけれども、他の委員は私も含めて8年くらいずっとやってきたわけですから、それを通しての感想等も是非承りたいと思います。いかがでございましょうか。

【竹林委員】

私も最初の段階から関わらせていただいて、感想というよりはお願いのほうが強いのですが、今回の周辺地域説明会など、多分これだけ大規模にやられているP Iというのはあまり例がないと思います。少なくとも空港ではないはずですが。成功した例は皆さん結構覚えているのですけれども、どういう点を失敗したとか、うまくいかなかったとか伝わりにくかったという、経験みたいなものをどこかに蓄積しておかないと、今回で終わりということではなく、次に何かの形で引き渡していくということが必要だと思います。これは地元の県や市の方も同様なのですが、是非とも今までやってこられたノウハウは公開できる形できちんと残しておいていただきたいと思います。

【石田委員長】

ありがとうございます。いかがでございましょうか。

【杉尾委員】

寄せられた意見に対する回答というのは、先ほど石田委員長も指摘されていましたが、きちんとした回答がなされています。こういった回答のフィードバックについて、ホームページで回答なさっているわけでしょうけれども、質問した人にどのような形でお答えしたかという、フィードバックと情報の継続性をいかに活かしていくか、私どもが関係していて、今後の課題になってくるかなと思います。毎回同じ質問が寄せられていて、同じような回答がなされていて、最後もそういうものが出てきたと。今後、空港の建設工事に移っていくわけでしょうけれども、こういったものの情報の継続性とフィードバックをどの

ように活かすか、こういったことを是非関係者の方をお願いしたいと思っております。

【石田委員長】

さっきの順番でよろしいですか。では藤田委員お願いします。

【藤田委員】

杉尾委員や山本委員が言われたことと全く同じ意見を持っております。P Iは終了いたしますけれども、今後、福岡空港の滑走路の増設とか、ターミナルのセットバックに伴う工事とか、本格的なものが始まると思います。周辺地域の方はもとより利用者の方々をはじめ、本当の影響というのが今から始まると思います。そういう意味でご担当者の方々の情報提供の重要性というのはますます高まってくるはずなので、P Iの精神を活かして今後もやっていっていただければありがたいと思っております。

【山本委員】

私は一番最初のラウンドゼロ、つまりP Iとはどういうものかという委員会から参加をさせていただきました。その際、福岡からの参加は私しかいなくて、最初はやれるのだろうかと思ったものです。福岡はその当時、空港をつくることに対して大変な紆余曲折を経てきていたわけでごさいます、そういう紆余曲折から来る、官に対する疑いがありました。つまり形式上こういうことをやっているのではないかと、基本的にもう決まっていることではないかというような疑いというのが、果たしてこういう活動で少しでも払拭されることがあるのだろうかというのは、地元から参加した唯一人として非常に疑問で、果たしてみんなが来てくれたり聞いてくれたりするのだろうかと思っていました。最初始めた頃は、そういう反発というか、必ず疑われていること、初めから決まっているのではないかという疑いを、意見の中にも垣間見ることがありました。必ずしも全部払拭されたとは思いませんが、回を重ねるごとにそういう意見が減ってきたというのは、地元の者としては、こういうものは福岡に必要なのだと思った次第です。また、最終の今回のP Iで思いましたが、少なくとも説明会で質問を聞く限り、あるいは意見の集約の中を見る限り出てきていないですね。そういう意味では、確かに効果があると思いました。皆さんが、意見を言う中で決まっていくことがあるということを着実に獲得できた。先ほどノウハウを蓄積してほしいですねっておっしゃったとおり、マニュアル本のようにできるものはないので、こういう活動をやる意味というか、ノウハウというか、あるいはどういう経緯を経てくるかということについて、どこかでまとめてほしいと思います。参加してくださった方々、市民の方々、いろいろな方々の努力を、空港だけでなくいろいろな面に活かすことにつな

がると思う次第です。

【石田委員長】

ありがとうございました。

私も少し申し上げたいと思います。山本委員が、当初本当にできるのかなと思ったという話をされました。このP I評価委員会はある種ジレンマを背負って発足したわけでございます。我々は協議会から委嘱をされているわけでございます。そういう立場で本当に中立・公正なP Iの評価ができるのだろうかという議論をしたことを鮮明に覚えております。委員の皆様方、ほんとうに真摯な議論といいますか、接し方といいますか、アドバイスの仕方とか、時には厳しい評価もございましたが、そういうものによって、このP I評価委員会の中立性や公正性への疑問や批判というのは、ほとんどなくなったということを、嬉しく思っております。8年間の成果がこういうところにも現われてきているのだろうというように思います。

2点目ですが、これも皆さんおっしゃったことでございますが、やはりいろいろな人の想いとお金と時間とがかかってここまでやってきたわけでございます。その中には失敗もありましたし、いい結果が出たものもございます。福岡空港の検討に係るP Iというものはこれで終わりますけれども、これから建設工事、ターミナルの整備、あるいはネットワークをどう張っていくか、それを福岡・九州のためにあるいは日本のためにどう使っていくか、活用していくかという意味で本番はこれからでございます。そういう中で、ここで培われてきたいろいろなノウハウとかネットワーク、あるいはいろいろな人に対する信頼感というものを是非活用していただければと思います。そうでないと、これまでに皆さんだけでなく、たくさんの方が貴重な時間を費やしてレポートを読んでもらったり、P I活動に参加して下さって、非常に貴重なたくさんの意見をいただいたわけでございますので、そういう人たちからいただいた贈り物だと思いますので、そのことを是非、いろいろなところで継承してください。空港だけでなく、行政一般に継承すべきものがいっぱいあると思います。そういうことをお考えいただければという感想を強く持っております。

他に何かご意見がございましたら、どうぞご遠慮なく。

【山本委員】

時代は変わったなと思いました。昔は、飛行機の運賃は決まっていて定額でしたし、飛行機の運賃が時間によって変わったり、路線によって違ったり、時間帯によって選べたりできませんでした。今はそうになりましたし、LCCについても皆さんが意見を言ってこら

れるので、何かびっくりしてしまいます。本当に時代が変わるスピードは早いものだなと思いました。

素人で参加させていただきましたけれども、皆さんと同時に私自体もこんなに変わっていく時代でやらせていただいたことで知識が増えたこともあり、そういう意味では、私も委員を務めさせていただいてよかったなと思っている次第です。ありがとうございました。

【石田委員長】

ありがとうございます。

説明会に参加させていただいて、言葉のイメージからする行き違いというのが気になると思いました。非精密進入というのに非常に敏感に反応される方がおられて、精密進入と非精密進入ということだけ聞くと、非精密進入というのは二流とかいうイメージがあるのですね。これは本当に誤解だと思うので、航空局におかれましても何か適切な言葉を考えていただければ、これからのP Iでの説明とかコミュニケーションもさらに正確にかつ効果的に進んでいくのではなかろうかなと思いました。難しいとは思いますがご検討いただければと思います。蛇足でございます。

その他はよろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

【石田委員長】

それでは、もうご意見あるいは感想もいただきましたので、委員長として、今日いただいた皆さんの意見を取りまとめさせていただきたいと思います。

今回のP Iについては、第1にP I活動が実施計画の基本方針に則り適切に行われているということに関しては、皆さんにご同意をいただきました。

第2に、実施目標である住民・関係者の皆さんと情報を共有し、ご意見を把握・集約するといったことについても非常に高い評価をいただきました。

そういうことでございますので、本委員会としてはこの構想・施設計画段階におけるP Iは良好に実施できており、一定以上の成果を得ることができたと評価したいと思います。そういうことでよろしいでしょうか。

評価書については、感想という中で今後のさらなる展望とか期待感もご表明いただきましたので、今の点と本日の議論をもとに文案を私で作成いたしまして、各委員と連絡をとりながら評価書を作成してまいりたいと思います。

このことを今回の審議の結果としたいと考えておりますけれども、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

【石田委員長】

どうもありがとうございました。

それでは、これでP I 実施結果に関する評価の審議を終わりたいと思います、どうもありがとうございました。

この場をお借りして、最後ということもごさいますので少しお時間をいただきたいと思います。

一つは、確認事項でございます。本日の審議結果も踏まえ、後日、検討協議会においてP I 終了の判断がなされると思います。そこで終了となった場合には、福岡空港構想・施設計画段階P I 評価委員会規約第2条と第5条に基づき、当委員会の所掌事務は完了となります。どうもありがとうございます。

名前は変わりましたが8年間本委員会の委員長を務めてまいり、今日で一つの区切りとなりますので、これまでのP I について、感想を申し上げたいと思います。

当初、本委員会の中立性と公正性についての議論をしたことを非常に鮮明に覚えております。本当に、皆様のご協力により、本委員会の任務に対して、社会的に信任していただいたということで、委員長として改めて御礼を申し上げたいと思います。このような大事なプロジェクトの委員長としての職責を全うできたかなと安堵しております。

今回は、具体的な施設の配置などを検討する構想・施設計画段階のP I であったことから専門的・技術的で難しい内容でありましたが、8割を超える方から、「わかった」「概ねわかった」という非常に高い評価を頂いております。これも、これまで8年間で蓄積されたノウハウの賜物であり、特に、自由記述でご意見を多く頂いたことは、情報が良く伝わったからだと思います。また、意見を述べればきちんと対応してもらえるということが、市民・県民の皆様にこの8年間をかけて伝わったからだとも思います。そのような意味で、このP I は、困難なこともありましたが、一方通行ではない良好なコミュニケーションの賜物であるとも思っております。

今後は、本段階を終了してから、環境アセスメントへ着手されると思います。あるいは、ターミナルやアクセスなどの問題が多数待ち受けていると思います。このような中で対話型コミュニケーションを図りながら進めていくことが、避けては通れない当然のこととなり、P I という名前ではないかもしれませんが、P I の精神、考え方は当たり前のものに

なると思います。

このような点から、この８年間にわたる色々な経験、ノウハウ、思いなどを是非様々なところに承継していただけたらと思います。このことを最後に強くお願いして感想を終わらせていただきます。

以上でございます、どうもありがとうございました。

それでは、他に何かございますでしょうか。

【松原部長】

それでは、本日の委員会を含めまして、本日に至るまでの長い時期にわたりましてこの委員会を運営していただきました委員の皆様には深く感謝を申し上げたいと思います。

平成１６年１２月からこの会合についてはいろいろと議論をしていただいたということでございます。委員によっては遠方のほうから足をお運びいただきまして、その回数もう数え切れないということで私ども感謝申し上げる次第でございます。この間、本当に厳しい時代の中で、お話にもありましたけれども官に対する疑念というか不信感の中からスタートしたというお話にもありましたように、これからの行政をどのように運営していくかという不安の中でスタートしてきたわけですが、温かいご指導、厳しいご指摘を受けながら今日、ここに至ったと思っています。

本日は、ＰＩの結果の報告を踏まえてこの委員会において合格という評価をいただいたと思っています。加えまして、今後に対する期待というか注文もいただきました。今まで培ってきたノウハウ、そしてネットワーク、そして信頼感を得てきたというこの内容を次の時代に向けてさらに進化させるようにというご指摘をいただきました。このご指摘を念頭に、これから行政運営に携わっていきたいと思っています。

本日の委員会を踏まえまして、技術検討委員会を経て行政が中心になります協議会ということになりますが、その中で、今回いただいたＰＩに関する内容もしっかりとご報告させていただいて、一定の方向づけをした上で次の段階にしっかりと歩みを進めてまいりたいと思っています。

本当に、重ね重ね大変長きにわたりましてありがとうございました。感謝申し上げます。

【石田委員長】

それでは、最後に何か委員の皆さんからございますか。特にございませんか。

【事務局】

それでは、事務局のほうから、よろしいでしょうか。

本日はスムーズな運営をしていただきまして、どうもありがとうございました。委員の皆様、運営にご協力をいただきましたことに対しまして、お礼を申し上げます。本当にありがとうございました。事務局からは以上でございます。

【石田委員長】

ありがとうございました。

それでは、以上で本日の議事を終了したいと思います。どうもありがとうございました。

【事務局】

これをもちまして、第2回福岡空港構想・施設計画段階P I評価委員会を終わらせていただきます。ありがとうございました。

— 了 —